



—東地中海地域ニュース—

イラン：テヘラン研究用原子炉の燃料問題に関するアフマディーネジャード大統領などの発言
(12月28日、1月3日付現地各紙)

1. アフマディーネジャード大統領の発言：(テヘラン研究用原子炉の燃料供給に言及し) 燃料交換は技術的な作業であり、交渉期限は意味を為さない(12月25日、英4chとのインタビュー)。
2. モッタキー外相の発言
 - A. 12月24日、イラン国営放送とのインタビュー
 - (1) もし、西側諸国がテヘラン研究用原子炉の燃料供給の為に提案された枠組みにおいて行動しないのであれば、イランは自ら20%の濃縮ウランを生産することを望むであろう。
 - (2) 他国での燃料交換に問題はない。しかし、西側諸国は、信頼の醸成を行い、自身の善意を示すべきである。
 - (3) (燃料の)交換は、受け入れられるものであり、フォロー可能な事案である。イランは、我々の提案に基づき、P5+1との交渉を継続する用意がある。現在、ボールは西側諸国にあり、彼らが論理的な回答を出すべきである。
 - (4) 我々は、10カ所の新たな濃縮施設の決定を行った。次の一步は、2万メガワットの原子力発電であり、(この分野に関し)我々は外国側との交渉に入るであろう。
 - B. 1月2日、イラン国営テレビでのインタビュー
 - (1) イランは西側に対して、もし1月末までにテヘラン原子炉の燃料引き渡しのための交換が行われなければ、イランは(自国で)原子力燃料の生産を行うと警告する。
 - (2) 西側はイランによる提案を受け入れるか、或いは燃料をイランに得るか、或いはイランと濃縮ウランの交換を行うかを決断しなければならない。これは最後通告である。国際社会は決断に1カ月の猶予しかない。これ以外の場合には、イランはテヘラン研究用原子炉に必要なさらに高濃度のウラン濃縮を行うであろう。